

講義名: サステイナビリティ論 <秋> 曜日: 金1 担当教員名: 巖 圭介	ナンバリングコード: SOC1420 曜日2:				
研究室: 聖アンデレ館7階716号室 オフィスアワー: 金曜日昼休み	メールアドレス: iwao@andrew.ac.jp				
授業形態					
『講義』 『実務経験のある教員による授業①(農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含み社会の持続可能性について講義する。)]』					
講義・演習概要					
SDGs、持続可能な開発目標は、よりよい世界を作るために2030年までに達成すべき17の目標を掲げたものである。すべての目標は相互に関連しているが、中でも環境問題の解決は多くの目標をつらぬく最重要課題の一つである。この講義では、地球環境の諸問題をいかに解決していくのか、その現状と展望、限界について解説する。姉妹科目である「環境問題概論」の いわば「解決編」として位置づけられる。					
学習(到達)目標					
主要な環境問題(ゴミ問題、人工化学物質汚染、食糧問題、気候変動、エネルギー問題)について、問題解決に向けて今なされていること、なされるべきことを説明できるようになる。					
講義・演習計画					
【第1回】 イントロ: 持続可能な開発目標SDGs					
【第2回】 ゴミ問題と持続可能な消費1: リサイクル法					
【第3回】 ゴミ問題と持続可能な消費2: LCA					
【第4回】 ゴミ問題と持続可能な消費3: 循環型社会へ					
【第5回】 化学物質汚染と持続可能性1: 農業と化学肥料					
【第6回】 化学物質汚染と持続可能性2: リスク論					
【第7回】 水と土の持続可能性					
【第8回】 食料生産の持続可能性					
【第9回】 気候変動と持続可能性1: 持続可能なエネルギー					
【第10回】 気候変動と持続可能性2: 原子力					
【第11回】 気候変動と持続可能性3: 持続可能な街					
【第12回】 気候変動と持続可能性4: 持続可能な暮らしへ					
【第13回】 地球の限界					
【第14回】 その他のSDGsと環境問題					
【第15回】 まとめ: 持続可能な開発と地球環境					
成績評価の方法					
試験	50%	レポート	50%	その他	
コメント	大きなテーマごとにレポートを課すほか、各回の内容の理解を確認する小テストを行い、合わせて成績評価を行う。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
環境省編『令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』(Web版)、東京商工会議所『ECO検定公式テキスト(改訂7版)』日本能率協会マネジメントセンター 2019年、ロスリング他『FACTFULNESS(ファクトフルネス)10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP 2019年、他、適宜紹介する。					
事前および事後学習の指示(事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)					
日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートをとり、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。					
その他備考(担当教員用)					
この講義は「環境問題概論」の姉妹科目です。「環境問題概論」において現状の問題を紹介しますので、この「サステイナビリティ論」では主に解決策などについて説明します。できればこの授業の前に「環境問題概論」を受講することをお勧めします。また2回生以上はこの「環境問題概論」(2単位)と「サステイナビリティ論」の両方を受講することで、旧「環境問題概論」(通期4単位)の単位となります。					
キーワード					
持続可能性 環境					
備考(管理者用)					
(旧: 環境問題概論)02~20生読替					